

友達と写真を撮ったり、歌ったり、なかには馬の被り物姿で、学生たちは基礎ゼミごとに自由にウォーキングを楽しんでいた。基礎ゼミは、いわば少人数のクラス。大学の仲間づくりの「基礎」となる。

最初は元氣よくスタートしたものの、強い陽射しで徐々に疲れが出て、ペースが落ちていた人。だが、全員が無事に清水公園に到着することができた。

清水公園は千葉県野田市に位置し、東京ドーム約六個分の広大な敷地だ。この時期は新緑が目に見え、すがすがしい香りが漂う。

また、フィールドアスレチックは日本最大級の規模をほこり、世界初の噴水迷路「アクアベンチャー」では遠足の子供たちの声がきやかだ。

清水公園につくと、基礎ゼミ(以下ゼミと省略)ごとに火をおこすところからバーベキューが始まった。

慣れない火おこしに戸惑って手こずっているゼミが多い。新聞紙や着火剤の使い方が分からない。炭にどのようにしたら火

江戸川ウォークで仲間づくり

2014年4月25日金曜日、新1年生の親睦を図る目的で、江戸川ウォークが開催された。この日は、全学科が参加し、東武アーバンパークライン川間駅近くの河川敷に集合し、清水公園までの約2キロの道のりを基礎ゼミの仲間たちと教員が思い思いに歩き、バーベキューを存分に楽しんだ。(文: 石原健太郎 井上浩美 撮影: 志摩千尋 綿引桃花 Afanasyeva Svetlana)



がうつるのかと迷ったり、うちわであおぐ風の量が少なく、すぐ火が消えてしまったり。普段体験することのない作業に、日常で使っているコンロのありがたさを痛感した人も多かった。しかしこの作業で苦労をしたぶん、学生たちに仲間意識が生まれはじめた。火が付いたらさつそく食材を焼きはじめ。牛肉、豚肉、ソーセージ、かぼちゃ、なす、もやし、玉ねぎ、人参、キャベツ、帆立、バナナ。食べきれないと思えたほどの食材



焼きマシユマロというのは、名前の通りマシユマロを焼くのだ。焼きマシユマロとマロと竹串を持参していた。用意されていた食材を食べ終わった後、焼きマシユマロをするためだ。焼きマシユマロとマロと竹串を持参していた。用意されていた食材を食べ終わった後、焼きマシユマロをするためだ。焼きマシユマロとマロと竹串を持参していた。用意されていた食材を食べ終わった後、焼きマシユマロをするためだ。

+αの食材で盛り上がる

用いされていた食材に+αで、バーベキューを盛り上げた。さつそく、そのアイデアをレポートしよう。清水ゼミは、マシユマロと竹串を持参していた。用意されていた食材を食べ終わった後、焼きマシユマロをするためだ。焼きマシユマロとマロと竹串を持参していた。用意されていた食材を食べ終わった後、焼きマシユマロをするためだ。

を楽しみ、ゼミの中で仲間意識がより深まった。縮めの焼きそばでは、野菜が多めになってしまい、なかなか量の減らないゼミや、野菜を先に食べてしまい、肉焼きそばのようにして食べていたゼミもあつた。食事中、学生の笑顔は絶えなかった。さて、大学入学後初めてのイベントの感想は? 人間心理学科の花泉さんは「ゼミの人と馴染めてこれからが楽しみ」また、経営社会学科山崎さんは、「入学式のとき友達がいなくて不安だったが、友人の輪も広がった」仲間づくりの目的は達成されたようだった。が、それにより中がトロトロに溶け、さらに甘さが引き立つのだ。例年、マシユマロを持つてくるゼミはいくつかあるらしく、周りのゼミにもおすそ分けをし、大勢で賑やかに楽しんでいた。塩ダレを持参してきたのは新井ゼミだ。初めに配られたバーベキュー用のタレは、大量の肉にたいして種類。量も少なめ。そこで、タレが足りなくなることもなく、飽きが来ないようにすることができた。バーベキュー後半になるにつれ、タレが足りなくなるゼミが続出した。焼きそば用のタレでしのご学生がではじめる中、塩ダレは+αの威力を発揮していた。というわけで、来年の新入生にはぜひ+αをオススメしたい。

学生記者募集!

学生記者クラブは、学内外のイベントや、部活動、サークル活動などを取材します。記事は「江戸川大学学生新聞」として発行するだけでなく、ウェブにもアップして世界に向けて発信していくプロジェクトです。「Journalism」とは「発見や感動を相手に伝えること」。あなたもジャーナリストになろう! N棟1階の受付にお気軽に声をかけてください。連絡先: TEL(04-7152-9908)E-mail(kouhou@edogawa-u.ac.jp) 企画総務課